

「やすひさ」が行く、見る、聞く!



菅原道真公をお祀りする履脱天満宮の例大祭にて散餅。(2/7、松山)



地域の剣道大会に出席し、選手を激励する。(2/22、松山)



お子様、高齢者、障がい者がふれあう運動会に参加。(4/26、松山)



地域のお神輿の巡町途中に、激励に訪れる。(4/26、松山)

発達障害・自閉症を持つ子どもたちの、専門的ケアを行っている入所施設を視察させて頂く。現場の声を聞き、より良い環境にできるよう取り組んで参ります。(2/7、松山)



地元の現場の声を聞く

厚生労働省所管の労働基準監督署・公共職業安定所(ハローワーク)を視察。各個人の希望にあった求人情報の出し方を体験しました。(5/7、松山)



新スタッフ紹介 New

名前:谷田 吏 (タニダ ツカサ)
年齢:25歳(1989年11月17日)
趣味:スポーツ観戦、筋トレ、風水



谷田 吏

●ご挨拶
初秘書の業務に加え、自分にできること・自分にしかできないことは何かを考え行動していきます。能力を高めて、微力でも社会に、塩崎事務所に貢献していきます。今後ともご指導を宜しくお願い致します。

愛媛がんフォーラム

「がんになっても安心して暮らせる愛媛を目指して」



「がんになっても安心して暮らせる愛媛を目指して」をテーマに、三原じゅんこ参議院議員を講師としてお招きし開催された、愛媛がんフォーラムに出席する。厚生労働大臣として、皆様が安心して暮らせるよう、これからもより良い環境づくりに取り組んで参ることをお約束する。(2/8、松山)

地元松山で講演



日本保育協会愛媛県支部主催の事務研修会にて講演。核家族化の進展や地域連携の希薄化など、子育て環境の変化が進む昨今。子どもの最善の利益が実現する社会を目指し、邁進します。(2/21、松山)

松山私立病院協会総会にお招きいただき、「今後の保健医療政策」についての講演を行う。高齢化先進国であるわが国が抱える財政、保健医療問題をいかに克服するかについてを政局等の話題を交え熱く語る。(3/14、松山)



～あなたの声を政策に～ 参加者大募集!

ご近所やサークル、職場、ご友人など、お仲間の輪の中に塩崎やすひさが参ります。ぜひ皆さんの暮らしの「生の声」をお聞かせ下さい。連絡先:塩崎恭久事務所 089-941-4843(早瀬・中田)



やすひさの瓦版 (第103号)

Home-page <http://www.y-shiozaki.or.jp> E-mail shiozaki@y-shiozaki.or.jp

2015年7月3日
自由民主党愛媛県第一選挙区支部長
衆議院議員 塩崎 恭久
〒790-0003 松山市三番町4-7-19
TEL 089(941)4843 FAX 089(941)4894

厚生労働大臣として、日本の改革を推進

青葉若葉のみぎり、瓦版103号を発行することとなりました。本号では、日頃の、私の厚生労働大臣としての職務を中心にご紹介したいと思います。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

さて、4月12日に投開票が行われた愛媛県議会選挙では、皆さまのお陰さまをもちまして、自民党公認・推薦の候補者28人全員が当選させて頂き、県議会の最大会派として、引き続き重い責任を担わせて頂くことになりました。連携している公明党とともに、愛媛県の発展と生活向上のために、その力をいかに発揮して頂きたいと思ひます。私も自民党・愛媛県連の県連会長として、全力で後押しして参る所存です。

皆様のお陰さまをもちまして厚生労働大臣に就任してから約10ヶ月となりました。就任直後、デング熱やエボラ出血熱への対応から始まり、社会保障制度改革、がん対策、児童福祉、国際ヘルスケア、雇用政策など、多岐に渡る分野に、日々全力で取り組んでいます。特に社会保障制

度は、少子高齢社会を迎え、日本の財政が益々厳しさを増す中、従来の発想にとらわれず、あらゆるアイデアを結集していくことが大事です。スピード感が大切であり、国民の皆様のご理解を頂戴しながら、着実に改革を進めて参る決意です。

また国会でも、国民生活に身近な重要法案が次々に成立しています。特に、医療保険制度や雇用制度に関する改革法案は、今後、長期的な社会保障制度の維持や日本の経済発展のために不可欠です。引き続き重要法案の審議が続く中、日本を前進させるため、国民の皆様にご丁寧にご説明申し上げながら、不退転の決意で取り組んで参ります。

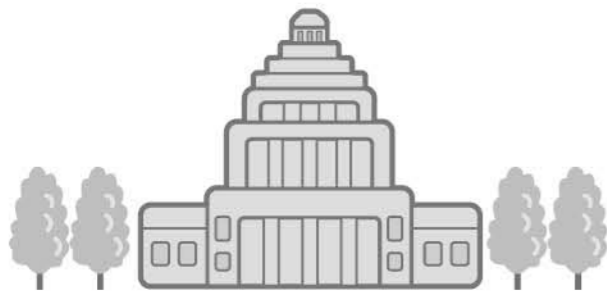
日本の改革を不断に進めるには、一つ一つの政策、法案を着実に実行していくことが何よりも大切です。一つ一つの取り組みが、より強い日本、そして愛媛、松山を作ることになるとの信念を貫き、引き続き全力で取り組んで参る決意です。今後とも皆様の温かいご支援、ご指導を、心よりお願い申し上げます。



衆議院予算委員会。医療・介護、年金、障害者福祉、労働法制など、ありとあらゆるテーマについて、集中的に質疑を行う。(3/10、東京・国会議事堂)



自由民主党愛媛県支部連合会第59回定期大会を開催。山積する問題に対し、町、市、県、国が一体となって乗り越えて行くことを誓う。(5/23、松山)



厚生労働大臣として日夜奮闘中



永田町、霞が関を駆け抜ける



認知症団体の代表の方々と面会。政府は、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らせる社会の実現を目指す新戦略「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」を決定。(1/27、東京)



安倍総理出席のもと「子供の未来応援国民運動」を立ち上げる。今後、内閣府・文科省・厚労省、そして日本財団を中心に各種事業を推進していく。(4/2、東京)



6月14日(日)の「世界献血者デー」を前に、日本赤十字社主催の「羽生結弦選手と共におのちと献血の大切を考えるイベント」に参加し、献血の大切さを訴える。(6/1、東京)



20年後も現役世代である30~40代の構成員を中心とした懇談会を設置し、計8回の懇談会開催を経て「保健医療2035」が公表される。(6/9、東京)

大臣室にお迎えしました



私も入会している「身体障害者補助犬を推進する議員の会」の皆さんが盲導犬、補助犬、介助犬、聴導犬とともに要請に来られる。(2014/9/10、東京)



福島県の内堀知事より「ふくしまの復興・創生に向けた提案・要望」を受け取るとともに、雇用、保健医療福祉人材の確保等について要請を受ける。(6/12、東京)



ハーバード行政大学院(ケネディ・スクール)の現役学生の表見訪問を受ける。学生達の真剣な眼差しに、先輩として後輩を頼もしく思う。(3/19、東京)



パラオ共和国のトミー・レメンゲサウ大統領とテミー・シムルベリリ州知事と面会。旧日本兵のご遺骨収拾事業について、緊密に協力することを確認。(5/20、東京)

世界そして日本各地を訪問



ダボス会議「健康と経済成長サミット」に参加。WHO事務総長、米国CDC長官、独、蘭、仏等の保健大臣など、保健分野の世界トップが集結(1/25、スイス)



中国・北京で開催された日中韓三国保健大臣会合に出席し、エボラ出血熱の拡大防止など、3カ国が協力を深めることに合意。(11/23、中国)



DVや貧困など、児童の養育が十分できない母子の自立をサポートする母子生活支援施設を視察し、スタッフの方から現場の声をお聞きする。(2/28、東京)



初めて硫黄島を訪問し、日米合同慰霊追悼式に出席。今なおこの地に眠る1万2千柱ものご遺骨の早期帰還に全力で取り組む決意を新たにする。(3/21、硫黄島)

講演にて熱い思いを語る



女性エグゼクティブの会で、「女性が輝く日本」となっていくための子ども・子育て支援の拡充、児童福祉政策の見直し等について講演。(6/16、東京)



恒例の「塩崎恭久と明日を語る会in東京」を開催。引き続き、国民の皆様のご理解を頂戴しながら、改革を着実に前進させて参ります。(4/20、東京)



「塩崎恭久を囲む会in神戸」に、今年は井戸敏三兵庫県知事にもご参加いただき開催。社会保障、子供の貧困問題などへの貢献について語る。(4/26、神戸)



各界の第一線で活躍する方々の勉強会で、中長期的な社会保障制度改革など、従来の枠にとられない取り組みについて大いに語る。(5/18、東京)

TOPICS



☆大臣に就任して10ヶ月。塩崎大臣が打ち出した政策は？

あまりに多く記載しきれませんが、例えば、今年1月に策定した「新オレンジプラン」により、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続ける社会の実現をより強く推進することにしました。また、20年後も現役世代である30代~40代の構成員からなる懇談会より、長期的な医療ビジョンである「保健医療2035」を発表し、従来の枠にとられない大胆な提言を行いました。

☆国会はテレビで流れている時だけ開催してる？

国会には、扇状の議場で開催される本会議と、個別のテーマについて討論を行う委員会があります。本会議や予算委員会はテレビ中継されることが多いのですが、厚生労働委員会はあまり中継されません。塩崎大臣が出席する必要のある委員会はほぼ毎日開催で、朝9時から夕方5時までは国会で答弁に立つことが多くなっています。

☆大臣の平均始業時間、平均退庁時間は？

国会がある日は、早朝5時~6時頃から厚労省内で国会答弁のための勉強レクが始まるのが頻りにあります。夕方5時まで国会で、その後、厚労省に戻り事務レクや面会をこなし、夜7時頃に役所を後にすることが多いようです。その後も、勉強会や面会を行ない、帰宅します。